

新年のご挨拶

三菱UFJ銀行健康保険組合
理事長 常森 賢行

新年あけましておめでとうございませう。

新型コロナウイルス感染症の発生から約2年がたち、被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、引き続き生活環境の大きな変化への対応を余儀なくされる難しい時期を過ごされているものと拝察いたします。こうした厳しい環境にもかかわらず、当健保組合の事業運営に対し日ごろより多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染者数増加の波のなかで、改めて医療のあり方が問われた年であったといえます。ワクチンの接種が進み、

やや落ち着きを取り戻したものの、有効な治療薬が開発され普及するまでは、今しばらく感染防止に努めながら健康保持を心がける一年となりそうです。

このような状況下、本年はいよいよ団塊の世代が75歳に入り始め、医療費の増加や、義務的経費である高齢者医療への拠出金負担の急増が見込まれる所謂「2022年危機」の年に入るため、健保財政の収支悪化が懸念されます。また、昨年は政府が推進する「データヘルス改革」の下、オンライン資格確認等システムを利用し、オンライン資格確認やマイナポータル等による特定健診や薬剤情報の閲覧が可能となりましたが、本年は閲覧可能対象が電子処方せん情報や医療機関情報等へと拡大される予定です。今後も申請手続きの電子化や保健医療情報の共有化、「PHR」(パーソナルヘルスレコード)の利活用など、医療保険分野におけるICTやデジタル技術活用の動きが活発化していくことが予想されます。

このように健保組合を取り巻く環境は一段と厳しさを増していますが、財政の健全性維持と、被保険者の皆さまの健康

増進や利便性向上が両立できるように確り取り組んでまいります。WHO憲章では、健康について「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と(日本WHO協会訳)と定義しています。私どもは、この満たされた状態と訳されている元の言葉である「well-being」を目指し、皆さまの健康増進を支え、健康寿命延伸のお役に立てる活動を推進してまいりますので、どうぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍における受診控え、健診控えの動きによる二次健康被害が懸念されるなか、被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましても、新年を機に今一度ご自身の健康管理に心がけていただき、日々の健康づくりにお取り組みいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新春にあたり、今年一年皆さまのますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。